

農業体験型 SDGs プログラムで八王子の農業に若者を巻き込もう！

Agricultural experience-based program for SDGs gets youth involved in agriculture in Hachioji.

國島ゼミ 5人グループ

学生氏名：中岸巧¹⁾、川田萌¹⁾、南場幸乃¹⁾、宮司桜子¹⁾、山下唯心¹⁾

指導教員 国島弘行

創価大学 経営学部 経営学科 國島ゼミ

キーワード：農業体験、特産品、学生、地域コミュニティ

1. はじめに

グループメンバーの共通認識として、「八王子に住んでいるが、八王子らしさを生活の中で感じることができていない」という実感があった。原因としては、学生生活の中で自然や地域コミュニティと関わる機会が圧倒的に足りていないことが挙げられるだろう。したがって、八王子の自然に関わることとして「農業」に、地域コミュニティに関わることとして「学生」に着目し、急速な農家数・農家人口の減少に対して、学生を巻き込む形での課題解決を考えた。私たちは、八王子の農業関係者と大学・高校が連携し、農業体験型 SDGs プログラムを大学生・高校生向けに開講することを提案する。

2. 八王子市の農業の現状と課題

本市では、農業に携わる人口が減少傾向にある。八王子農業統計データによると、平成 7 年は 7,398 人であったが、平成 27 年には 1,388 人と約 5 分の 1 以下にまで減っている。農業従事者の高齢化も進んでいるため、若者の担い手の確保や育成など早期の対策が必要となると考える。

また、市の具体的な取り組みとして、農業体験の実施や八王子特産の野菜を栽培するなど農業に対しての復興支援が行われている。私たちはこれらの取り組みに対し、2 つの課題があると考えた。1 つ目に、若者が参加できるものが少ないというこ

とだ。農業研修事業や親子農業ツアーやといったイベントが定期的に行われているが、特に学生はターゲット層として合わないだろう。自ら進んで参加してくれるプログラムを検討する必要がある。2 つ目に、育てている農産物についての認知度が高くないということだ。実際に私たちの周りでは、伝統野菜である「川口エンドウ」「八王子ショウガ」「高倉ダイコン」や近年力を入れて取り組んでいる「パッションフルーツ」の栽培について知らない人が多く存在した。この認知の低さも若者が八王子に関わる機会の少なさと関連しているのではないかと考える。



3. 八王子市の学生の現状と課題

八王子市は日本有数の学園都市で、約 10 万人の学生が住んでいる。加えて、大学コンソーシアム八王子に参加している学生は、八王子市外の学生も

含めておよそ 11 万人いる。このことから、八王子市の活性化や SDGs に対して関心や意識のある学生の母数は多いと考えられる。また地域活性化や地域との関わりを深めることを目的の一つとした学生天国も 5 月に開催されている。しかし、農業に絞って見ると農業に対する学生の興味や関心は高いが、土地や経験の無さなど、農業を始める難しさから農業を通して地域と関わっている学生はとても少ない。

4. 提案の目的と内容

私達は八王子の農業関係者と大学・高校が連携し、農業体験型 SDGs プログラムを大学生・高校生向けに開講することを提案する。本提案は、八王子の農業に関わる大学生・高校生の数を増やすことを最大の目的とし、大学生・高校生を巻き込む八王子の地域コミュニティの創出を目指すものである。

プログラムの具体的な項目として、開講式・講座・体験会・閉校式・交流会の 5 つがある。開講式ではオリエンテーションを行い、プログラムの説明と心構えに関するレクチャー、グループワークを通じたチームビルディングを実施する。講座では農業に関する基礎知識を座学で学ぶ。内容としては、一般的な大学生・高校生は農業の初步的な知識を持っていないと考えられるため、農業を 0 から学ぶ受講者を想定したものとする。本格的な農業を学ぶプログラムとしては、既に市が開設する農業研修事業「はちおうじ農業塾」があるため、内容の差別化を図る。また、体験会では八王子の特産野菜の栽培・生育・収穫のいずれかを体験する。これを行いながら、八王子の特産野菜に対する認知の向上を受講者に促す。閉校式では、グループ発表を行い、学んだ内容を発展させる。交流会では、プログラムを通じて知り合った八王子の地域住民と若者の交流を図る。

このプログラムは基本的に毎週土曜日の 13 時～17 時に実施する。プログラムの期間は約 3 か月間で、交流会を含め全 13 日間で実施する。プログラムの合計時間は全日程を合わせて 50 時間ほどとなる。プログラムで課されるレポートに取り組む時

間を含めれば、80 時間を超える想定である。このプログラムは八王子市内の大学・高校と連携し、学生が単位を取得できることを売りにしたいと考える。創価大学では、インターンシップの単位が 5 日間 40 時間以上で 1 単位、10 日間 80 時間以上で 2 単位である。このプログラムは厳密にはインターンシップではないが、2 単位以上取得することができるプログラムとして開講することができれば、学生の興味を引くことができると考える。

5. 終わりに

大学生・高校生を巻き込む地域コミュニティの創出を目指し、八王子の農業と学生を繋ぐ農業体験型 SDGs プログラムを考えた。私達は SDGs の 17 番「パートナーシップで目標を達成しよう」が大切だと考えている。農業に直接携わる経験が無かつたため、実現可能性には不安が残るが、この提案が大学と農業関係者、学生の関係を繋いでいくことを期待している。

6. 参考文献

八王子市 HP 統計八王子(令和 3 年 [2021 年] 版)
統計表 5 農林水産業 「農家数、農家人口」
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/002/006/tokehachihakunen/toukeihachiojih03/p030522.html> (閲覧日 : 2022 年 10 月 6 日)

八王子市 HP 統計八王子(平成 24 年 [2012 年] 版)
統計表 5 農林水産業 「農家数、農家人口」
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/shisei/002/006/tokehachihakunen/bc003/p006035.html> (閲覧日 : 2022 年 10 月 6 日)

八王子市 HP 「市域の大学・短大・高専」
<https://www.city.hachioji.tokyo.jp/159753/p005594.html> (閲覧日 : 2022 年 10 月 13 日)

創価大学 HP 「インターンシップ(国内)」
https://www.soka.ac.jp/career/for_students/internship/ (閲覧日 : 2022 年 10 月 13 日)